

高等教育研究開発推進センター日誌

(2007年4月1日～2008年3月31日)

年 月 日	記 事
2007.4.21	<p>第75回公開研究会 講演者：加藤かおり 新潟大学大学教育開発研究センター准教授 テーマ：「イギリスのFD事情—日本での「FDの義務化」をめぐる—」 コメンテーター：山内 乾史 神戸大学大学教育推進機構准教授、ロンドン大学教育 研究所客員研究員</p>
4.25	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成19年度第1回）
5.16	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成19年度第2回）
5.16	<p>総長裁量経費 —教育研究改革・改善プロジェクト等経費— 関西諸大学のFD実態調査および大学間連携ネットワークの構築</p>
5.20	<p>助教 酒井 晃二 2007年国際磁気共鳴医学会 年次会議（ISMRM2007）参加・発表・ 資料収集のためドイツへ海外出張（5.25帰国）</p>
5.24	<p>准教授 大山 泰宏 メディア発達と教育デザインに関する、大学院生との演習、及び 教育学部教員との研究交流、資料収集のためメキシコへ海外出張（7.13帰国）</p>
6.15	<p>平成19年度科学研究費補助金・基盤研究（B）継続 「ポリュームコミュニケーション技術による遠隔協調研究支援環境の構築」 研究代表者：小山田耕二 高等教育研究開発推進センター教授 研究分担者：江原 康生 学術情報メディアセンター助教 伊藤 貴之 お茶の水女子大学理学部准教授</p>
6.15	<p>平成19年度科学研究費補助金・基盤研究（B）継続 「学習共同体の生成と個の学び—移動と固有名性に焦点をあてて—」 研究代表者：松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授 研究分担者：高木光太郎 東京学芸大学国際教育センター准教授 庄井 良信 北海道教育大学大学院教育学研究科准教授 杉原 真晃 山形大学高等教育研究企画センター講師</p>
6.15	<p>平成19年度科学研究費補助金・基盤研究（C）継続 「英語学術論文作成のための自律学習支援システムの構築—ESP語彙リストに基づいて—」 研究代表者：田地野 彰 高等教育研究開発推進センター教授 研究分担者：寺内 一 高千穂大学商学部教授</p>

- 6.15 平成19年度科学研究費補助金・基盤研究 (C) 新規
「歩行中の外乱に対する姿勢制御における生体情報解析」
研究代表者：小田 伸午 高等教育研究開発推進センター教授
- 6.15 平成19年度科学研究費補助金・基盤研究 (C) 新規
「単位制度の実質化を目指すカリキュラム評価方法の開発」
研究代表者：溝上 慎一 高等教育研究開発推進センター准教授
研究分担者：小田 伸午 高等教育研究開発推進センター教授
中間 玲子 福島大学人間発達文化学類准教授
山田 剛史 島根大学教育開発センター講師
山田 礼子 同志社大学社会学部教授
秦 由美子 大阪大学大学教育実践センター准教授
- 6.15 平成19年度科学研究費補助金・萌芽研究 新規
「微小粒子を用いたボリュームレンダリング手法の開発」
研究代表者：小山田耕二 高等教育研究開発推進センター教授
- 6.15 平成19年度科学研究費補助金・若手研究 (B) 新規
「社会性を支える高次の心的状態の理解に関する認知発達の研究」
研究代表者：林 創 高等教育研究開発推進センター教務補佐員
- 6.15 平成19年度科学研究費補助金・学術図書 新規
「再帰的事象の認識とその発達に関する心理学的研究」
研究代表者：林 創 高等教育研究開発推進センター教務補佐員
- 6.23 第76回公開研究
講演者：水光 雅則 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
テーマ：大学英語教育の『システム』が抱える問題と解消の仕方—教育ガラパゴスの不思議な進化—
- 6.30 教授 松下 佳代 ISSOTL 2007 Conference への参加・資料収集のためオーストラリアへ海外出張 (7.6 帰国)
准教授 溝上 慎一 同上
- 7.11 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成19年度第3回)
- 7.17 全学経費 全学共通経費 第14回大学教育研究フォーラム開催経費
- 7.26 高等教育研究開発推進センター協議員会 (平成19年度第1回)
- 8.3 大学院生のための教育実践講座—大学でどう教えるか—
(特色 GP「相互研修型 FD の組織化による教育改善」の一環)

開 会 式

挨 拶 尾池 和夫 京都大学総長

趣旨とプログラムの説明

大塚 雄作 高等教育研究開発推進センター教授

セッション1 グループ討論1：(自己紹介)「大学の授業について」

セッション2 ミニ講義1：「大学の授業1」

松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授

セッション3 ランチと自由討論

セッション4 グループ討論2：「大学の授業で教師に求められるもの」

セッション5 ボディーワーク：「他者とのつながり・自分とのつながり」

濱野 清志 京都文教大学教授

大山 泰宏 高等教育研究開発推進センター准教授

セッション6 ミニ講義2：「大学の授業2」

溝上 慎一 高等教育研究開発推進センター准教授

セッション7 全体討論：「大学で教えるために」

セッション8 ミニ講義3：「大学で教えるために」

田中 每実 高等教育研究開発推進センター教授

閉 会 式

挨 拶・修了証授与 東山 紘久 京都大学理事

閉会式終了後 情報交換会

- 8.20 准教授 溝上 慎一 ヨーロッパ発達心理学会第13回大会出席のためドイツへ海外出張 (8.27帰国)
- 8.27 助教 酒井 博之 ヨーロッパ教育方法研究学会2007参加・発表・資料収集・情報交換／第19回国際音響学会 (ICA) への参加・教室環境に関する資料収集のためハンガリー・スペインへ海外出張 (9.9 帰国)
- 8.28 准教授 大山 泰宏 ヨーロッパ教育方法研究学会2007参加・発表・資料収集・情報交換／学習者・研究者中心の教育環境の構築に関する情報収集のためハンガリー・スイスへ海外出張 (9.7 帰国)
- 10.1 助教 酒井 晃二 MRI を用いた統計的病態解析システム構築に関する研究のためアメリカへ海外出張 (9.30帰国)
- 10.17 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成19年度第4回)
- 10.29 教授 小山田耕二 2007 IEEE Visualization Conference にて研究発表及び情報収集のためアメリカへ海外出張 (11.2 帰国)
- 10.31 高等教育研究開発推進センター協議委員会 (平成19年度第2回)
- 11.13 全学経費 全学共通経費 FD 研究検討委員会活動支援等経費 (教務企画課)

- 11.25 准教授 日置 尋久 国際会議 IIMSP2007 に参加、研究発表のため台湾へ海外出張 (11.29帰国)
- 12.14 第2回工学部教育シンポジウム
主催：京都大学工学部・高等教育研究開発推進センター
開会挨拶
西本 清一 工学部長
調査報告 工学部授業アンケートの結果と分析 (平成18年度後期分・平成19年度前期分)
大塚 雄作 高等教育研究開発推進センター
卒業研究調査の結果と分析
酒井 博之、林 創 高等教育研究開発推進センター
教育改善に向けて
(1)私の授業—アンケート結果を受けて—
五十嵐 晃 工学部地球工学科准教授
上野 健爾 工学部物理工学科教授
佐藤 亨 工学部電気電子工学科教授
石田 亨 工学部情報学科教授
辻 康之 工学部工業化学科教授
門内 輝行 工学部建築学科教授
(2)カリキュラム改善の課題
湯浅 太一 工学部・新工学教育プログラム実施検討委員会委員長
ディスカッション
- 12.19 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成19年度第5回)
- 2008.1.7 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成19年度第6回)
- 1.8 高等教育研究開発推進センター協議員会 (平成19年度第3回)
- 2.16 第77回公開研究会
報告者：田地野 彰 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
寺内 一 高千穂大学・教授、京都大学高等教育研究開発推進センター研
修員)
テーマ：専門教育との連携を目指した大学英語教育—ESP の研究成果に基づいて—
- 3.3 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成19年度第7回)
- 3.12 高等教育研究開発推進センター協議員会 (平成19年度第4回)
- 3.12 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成19年度第8回)
- 3.24 准教授 田中 真介 幼児期・児童期の認知・言語・社会性の発達と教育プログラムに
関する調査研究のためオーストラリアへ海外出張 (4.4 帰国)

3.26~27

第14回大学教育研究フォーラム

(特色 GP「相互研修型 FD の組織化による教育改善」の一環)

基調報告／シンポジウム

司 会 大塚 雄作 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
 松下 佳代 京都大学高等教育研究開発推進センター教授

開会の挨拶 尾池 和夫 京都大学総長

基 調 報 告 「相互研修型 FD の組織化」の可能性—本取組の総括— (特色 GP 成果報告)

田中 每実 京都大学高等教育研究開発推進センター長

シンポジウム 「相互研修型 FD の組織化をめぐって」 (特色 GP 評価シンポジウム)

評価コメント1 絹川 正吉 国際基督教大学元学長・名誉教授

評価コメント2 天野 郁夫 東京大学名誉教授

評価コメント3 関内 隆 東北大学高等教育開発推進センター高等教育開発部
 長・教授

評価コメント4 山内 正平 千葉大学普遍教育センター教授

全体討論

小講演

(1)「FD する人」と「一般教員」のいい関係とは？

神藤 貴昭 徳島大学大学開放実践センター准教授

司会：田口 真奈 メディア教育開発センター准教授

(2)学校化する大学での“協同学習”のすすめ

関田 一彦 創価大学教育学部教授、教育・学習活動支援センター長

司会：溝上 慎一 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授

(3)医療系教育における FD の展開

平出 敦 京都大学大学院医学研究科・医学教育推進センター教授

司会：松下 佳代 京都大学高等教育研究開発推進センター教授

(4)自学自習の伝統とライティング教育の試み

竹澤 祐丈 京都大学大学院経済学研究科准教授

司会：小山田耕二 京都大学高等教育研究開発推進センター教授

(5)東京大学における「教育の情報化」

重田 勝介 東京大学大学総合教育研究センター特任助教

中原 淳 東京大学大学総合教育研究センター准教授

司会：田口 真奈 メディア教育開発センター准教授

(6)学生を理解するために—解離モデルという視点—

大山 泰宏 京都大学大学院教育学研究科准教授

司会：大塚 雄作 京都大学高等教育研究開発推進センター教授

(7)中教審と学士課程教育

鈴木 敏之 文部科学省高等教育局企画官

司会：田中 每実 京都大学高等教育研究開発推進センター教授

(8)教育評価を中心とした大学生の成長の促進—アンケートフィードバックシステムを

用いた学習者自身による PDCA システムの構築を目指して—

中西 良文 三重大学教育学部・高等教育創造開発センター准教授

司会：溝上 慎一 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授

ラウンドテーブル企画 (6件)

個人発表

- | | |
|-----------------------|------------------|
| (1)教育評価研究部会 | (2)カリキュラム研究部会 |
| (3)授業公開研究部会座 | (4)FD・授業公開研究部会座 |
| (5)e-Learning・遠隔教育研究部 | (6)大学生・大学生活研究部会座 |

参加人数 427名

- 3.31 教授 小山田耕二 EUROSIM/UKSiM2008 国際学会に参加、研究成果発表及び情報収集。セミナー及び研究に関する討論を Dr. Martin Turner らと行うためイギリスへ海外出張 (4.5 帰国)

高等教育研究開発推進センター組織

(2007年4月1日～2008年3月31日)

高等教育研究開発推進センター協議員：

田中 每実	センター長		
松下 佳代	センター教授	大塚 雄作	センター教授
吉田 純	センター教授	小田 伸午	センター教授
山本 行男	センター教授	水光 雅則	センター教授
田地野 彰	センター教授	小山田耕二	センター教授
高橋 由典	センター教授・高等教育研究開発推進機構副機構長		
北村 隆行	高等教育研究開発推進機構長		
北村 雅夫	高等教育研究開発推進機構副機構長		
堀 智孝	大学院人間・環境学研究科長		
加藤 重樹	大学院理学研究科長		
小林 道夫	大学院文学研究科教授		
川崎 良孝	大学院教育学研究科教授・同研究科長		
山本 豊	大学院法学研究科教授		
田中 秀夫	大学院経済学研究科教授		
平出 敦	大学院医学研究科教授		
伊藤 信行	大学院薬学研究科教授		
西本 清一	大学院工学研究科教授・同研究科長		
平田 孝	大学院農学研究科教授		
富田 眞治	大学院情報学研究科教授・同研究科長		
美濃 導彦	学術情報メディアセンター長		

高等教育研究開発推進センター運営委員：

田中 每実	センター長		
松下 佳代	センター教授	大塚 雄作	センター教授
高橋 由典	センター教授	吉田 純	センター教授
小田 伸午	センター教授	山本 行男	センター教授
水光 雅則	センター教授	田地野 彰	センター教授
小山田耕二	センター教授	大山 泰宏	センター准教授
溝上 慎一	センター准教授	田中 真介	センター准教授
日置 尋久	センター准教授	酒井 博之	センター助教
酒井 晃二	センター助教		

平成19年度学外研究協力者：

清水 豊子	千葉大学教育学部名誉教授
米谷 淳	神戸大学大学教育推進機構教授
山内 乾史	神戸大学大学教育推進機構准教授
吉田 雅章	和歌山大学経済学部准教授
神藤 貴昭	徳島大学大学開放実践センター准教授

吉田 文 メディア教育開発センター教授
田口 真奈 メディア教育開発センター准教授
中原 淳 東京大学大学総合教育研究センター准教授
矢野 裕俊 大阪市立大学大学教育研究センター教授
荒木 光彦 松江工業高等専門学校校長
井下 理 慶應義塾大学総合政策学部教授
藤田 哲也 法政大学文学部准教授
尾崎 仁美 京都ノートルダム女子大学人間文化学部准教授
山田 礼子 同志社大学社会学部教授
村上 正行 京都外国語大学マルチメディア教育研究センター准教授
鈴木真理子 滋賀大学教育学部准教授
杉原 真晃 山形大学高等教育研究企画センター講師
山田 剛史 島根大学教育開発センター講師
小田 隆治 山形大学高等教育研究企画センター教授
絹川 正吉 国際基督教大学元学長・名誉教授
夏目 達也 名古屋大学高等教育研究センター教授
本郷優紀子 桜美林大学単位互換協会事務局課長

平成19年度学内研究担当教員：

子安 増生 大学院教育学研究科教授
田中 耕治 大学院教育学研究科教授
高見 茂 大学院教育学研究科教授
杉本 均 大学院教育学研究科教授
楠見 孝 大学院教育学研究科准教授
土井 真一 大学院法学研究科教授
八木紀一郎 大学院経済学研究科教授
野間 昭典 大学院医学研究科教授
平出 敦 大学院医学研究科教授
藤井 信孝 大学院薬学研究科教授
大寫幸一郎 大学院工学研究科教授
湯淺 太一 大学院情報学研究科教授
山本 裕 大学院情報学研究科教授
富谷 至 人文科学研究所教授
美濃 導彦 学術情報メディアセンター教授
喜多 一 学術情報メディアセンター教授
角所 考 学術情報メディアセンター准教授
江原 康生 学術情報メディアセンター助教

平成19年度企画協力教員

大木 充 大学院人間・環境学研究科教授
丸橋 良雄 大学院人間・環境学研究科教授
酒井 敏 大学院人間・環境学研究科准教授
西山 教行 大学院人間・環境学研究科准教授
壇辻 正剛 学術情報メディアセンター教授

高等教育研究開発推進センター教員業績

(2007年4月1日～2008年3月31日)

※職名は2007年度現在

第一部門 (高等教育教授システム研究開発部門)

田中 每実 (教授)

1. 研究業績

【論文】

- ・田中每実、井下理 2007.5 「シンポジウムⅢ「FDのダイナミクス—現状の把握と課題の析出—」を司会して」『大学教育学会誌』第29巻 第1号、90-91頁
- ・田中每実 2007.9 「臨床的教育理論と近代教育批判の射程」教育思想史学会『近代教育フォーラム』第16号、25-32頁

【その他の著作物】

- ・田中每実 2007.3 「FDの義務化と島根大学の実践」『島根大学教育開発センター年報』第1号、26-42頁
- ・田中每実 2007.3 「FDの義務化に向けて」『山形大学高等教育研究年報』創刊号、2-41頁
- ・田中每実 2007.12 「書評／下司晶『フロイト主義』、日本教育学会『教育学研究』第72巻 第4号、135-136頁

【学会発表】

- ・田中每実 2007.5 「大学教育に関する臨床的研究の位置について」(シンポジウム「いま求められる高等教育研究とは」)日本高等教育学会第10回大会、名古屋大学
- ・田中每実 2007.6 「研究大学におけるFDとFD地域連携：京都大学の場合」(国際シンポジウム「研究・教育のシナジーとFDの将来」)東北大学高等教育開発推進センター
- ・田中每実 2007.8 指定討論(公開シンポジウムⅠ「教育政策と教育学研究との対話—教育学は政策学たりうるのか—」)日本教育学会第66回大会、慶應義塾大学
- ・田中每実 2007.10 司会(ラウンドテーブル「戦後教育学の見直し」)教育哲学会第50回大会、広島大学
- ・田中每実 2007.12 「FD工学的モデルの生成性の回復のために」(シンポジウムⅢ「FDのダイナミクス—FDモデルの構築に向けて—」)大学教育学会課題研究集会、龍谷大学

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「ライフサイクルと教育B」(後期、分担)
- ③大学院教育：「高等教育論演習ⅠA・B」(教育学研究科、前・後期)、「高等教育開発論 研究A・B」(教育学研究科、前・後期、共同)、「医療教育学」(医学研究科、後期)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・高等教育研究開発推進センター センター長
- ・京都大学教育研究評議会 評議員
- ・京都大学FD研究検討委員会 委員長

【社会活動】

- ・関西地区FD連絡協議会代表幹事校・代表

- ・教育哲学会常任理事・機関誌編集委員長
- ・教育思想史学会理事
- ・大学教育学会常任理事
- ・日本学術会議連携会員
- ・文部科学省中央教育審議会大学分科会専門委員
- ・国立教育政策研究所客員研究員
- ・日本学術振興会科学研究費委員会専門委員
- ・大阪大学 大学教育実践センター外部評価委員
- ・山梨学院大学附属小学校客員研究員

【講演】

- ・田中每実 2007.2 「FDの義務化に向けて」中部大学
- ・田中每実 2007.2 「FDの現段階と今後の展望—義務化をめぐる諸問題」国立教育政策研究所
- ・田中每実 2007.2 「FDの義務化とFD地域拠点の形成」山形大学
- ・田中每実 2007.3 「FDの義務化と島根大学の実践」島根大学教育開発センター
- ・田中每実 2007.3 「FDの新たな展開」大阪産業大学
- ・田中每実 2007.9 「FDの現状と課題」岡山大学
- ・田中每実 2007.11 「FDに組織としてどう取り組むか」宮崎公立大学

大塚 雄作 (教授)

1. 研究業績

【論文】

- ・大塚雄作 2007 高等教育の個別の実践と普遍的理論化の狭間で——大学評価・FD実践の体験を通して—— 高等教育研究・第10集、111-127. 日本高等教育学会
- ・大塚雄作 2007 大学教育評価における評価情報の信頼性と妥当性 工学教育、2007/7、vol. 55、no. 4、14-20. 日本工学教育協会

【その他の著作物】

- ・大塚雄作 2007 授業評価とアカウントビリティ 山地弘起 (編著) 『授業評価活用ハンドブック』、80-101. 玉川大学出版部
- ・大塚雄作 2007 授業評価アンケート項目の特徴を探る 山地弘起 (編著) 『授業評価活用ハンドブック』、139-165. 玉川大学出版部
- ・大塚雄作 2007 Q & A 山地弘起 (編著) 『授業評価活用ハンドブック』、199-213. 玉川大学出版部
- ・大塚雄作 2008 工学部授業アンケートの結果と分析 京都大学高等教育叢書26 『平成16年度採択特色GP報告書』 京都大学高等教育研究開発推進センター
- ・大塚雄作・大山泰宏・中村夕衣・田中優子 2008 FDに関する実態とニーズ調査 『関西地区FD連絡協議会の設立に向けて』 高等教育研究開発推進センター
- ・林創・大塚雄作 2008 関西地区FD連絡協議会「授業評価ワークショップ」事前アンケートとその結果 『関西地区FD連絡協議会の設立に向けて』 高等教育研究開発推進センター
- ・林創・大塚雄作 2008 関西地区FD連絡協議会「授業評価ワークショップ」事後アンケートとその結果 『関西地区FD連絡協議会の設立に向けて』 高等教育研究開発推進センター
- ・大塚雄作 2008 教員の教育活動の評価について 名古屋大学大学院文学研究科教育研究推進室年報『メタプティビアカ』、Vol. 2、69-88.

【学会発表】

- ・井下理・大塚雄作 2007 FDのダイナミックス (その3) ——第一次調査のフォローアップと新たなモデルの構築—— 大学教育学会誌、Vol. 29、No. 2、56-58.

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「教育評価の基礎Ⅰ・Ⅱ」（前・後期）、「ライフサイクルと教育A」（前期、分担）
- ③大学院教育：「高等教育開発論研究A・B」（前・後期）、「高等教育論演習ⅡA・B」（前・後期）、「日本の高等教育の課題と評価」（集中講義：教育学研究科・国際教育研究フロンティア；劉慧珍・金子勉・渡邊洋子・大塚雄作）

【学外】

- ・桜美林大学大学院国際学研究科大学アドミニストレーション専攻（修士課程）通信教育課程非常勤講師『高等教育研究調査法』

3. その他の活動

【学内委員】

- ・高等教育研究開発推進センター第1部門部門長
- ・高等教育研究開発推進機構執行協議会協議員
- ・大学評価小委員会委員
- ・第14回京都大学大学教育研究フォーラム実行委員長

【社会活動】

- ・日本高等教育学会研究紀要編集委員（～2007年5月）
- ・日本教育心理学会常任編集委員
- ・日本テスト学会監事
- ・日本テスト学会テスト・スタンダード作成委員会委員（～2007年8月）
- ・文部科学省高等教育局大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）専門委員
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構評価研究部 調査研究協力者
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構 学位審査会専門委員
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構 短期大学機関別認証評価委員会委員
- ・特定非営利活動法人実務能力認定機構理事
- ・財団法人大学コンソーシアム京都FDフォーラム企画検討委員会委員
- ・最高裁判所 家庭裁判所調査官試験委員会臨時委員
- ・ISO/TC232（人材育成と非公式教育サービス）国内審議委員会委員（2007年12月～）

【講演など】

- ・大塚雄作 2007.4 京都大学工学部における相互研修型FDとその組織化への挑戦 関西工学教育協会電気分科会平成18年度第5回研究集会 中央電気倶楽部
- ・大塚雄作 2007.5 FD義務化をめぐる——大学院設置基準の改正にあたって 天理大学
- ・大塚雄作 2007.6 FDの現状と評価のあり方——学問学習共同体の形成に向けて 日本大学法学部
- ・大塚雄作 2007.7 授業評価をFDの現状と評価のあり方——学問学習共同体の形成に向けて 大正大学
- ・大塚雄作 2007.8 FDの意義とその実践——FD共同体の形成に向けて 足利短期大学
- ・大塚雄作 2007.11 学生による授業評価の現状と課題 京都大学FD研究検討委員会授業評価ワークショップ
- ・大塚雄作 2007.11 FD法制化の意味と実状 群馬県立女子大学
- ・大塚雄作 2007.12 大学教育評価のあり方を考える——授業改善と説明責任の狭間で——名古屋大学文学部・第13回教育研究推進室ワークショップ
- ・大塚雄作 2007.12 授業アンケートの結果と分析 京都大学第3回工学部教育シンポジウム
- ・大塚雄作 2008.1 FDの意義とその実践——FD共同体の形成に向けて 関西地区FD連絡協議会授業評価ワークショップ（立命館大学）
- ・大塚雄作 2008.2 FD義務化時代の大学教育と評価——教員・TA・学生の学びの共同体の形成に向けて——福岡教育大学

- ・大塚雄作 2008.2 FD 法制化の意義と課題——遠隔高等教育の新たな挑戦に向けて—— 放送大学
- ・大塚雄作 2008.3 FD 組織化への挑戦と課題 第13回 FD フォーラム第1ミニシンポジウム 第13回 FD フォーラム報告書、51-56. 大学コンソーシアム京都
- ・大塚雄作 2008.3 大学評価時代の教育評価のあり方を問う——新たな学問学習共同体の形成に向けて—— 熊本大学工学部・大学教育の質保証と評価に関するフォーラム基調講演
- ・大塚雄作 2008.3 FD 法制化の意義と課題——MOT 教育の次なるステップに向けて—— 東京理科大学専門職大学院総合科学技術経営研究科
- ・大塚雄作 2008.3 FD 法制化の意義と課題——新たな学問共同体の形成に向けて—— 分子科学研究所
- ・大塚雄作 2008.3 「相互研修型 FD の組織化をめぐる」(特色 GP 評価シンポジウム) 第14回大学教育研究フォーラムシンポジウム司会 京都大学

松下 佳代 (教授)

1. 研究業績

【著書】

(単著)

- ・松下佳代 2007.12 『パフォーマンス評価』日本標準

(執筆分担)

- ・松下佳代 2007.7 「パフォーマンス評価による学びの可視化」秋田喜代美・藤江康彦編『はじめての質的研究法—教育・学習編—』東京図書、275-295頁
- ・松下佳代 2007.10 「数学リテラシーと授業改善—PISA リテラシーの変容とその再文脈化—」日本教育方法学会編『教育方法36 リテラシーと授業改善』図書文化、52-65頁
- ・松下佳代 2007.12 「パフォーマンスと学力—算数・数学学力調査で何をどう評価するか?—」耳塚寛明・牧野カヅコ編著『閉ざされた大人への道—学力とトランジションの危機—(お茶の水女子大学21世紀 COE プログラム誕生から死までの人間発達科学 第4巻)』金子書房、25-46頁

【論文】

- ・松下佳代 2007.11 「コンピテンス概念の大学カリキュラムへのインパクトとその問題点—Tuning Project の批判的検討—」『京都大学高等教育研究』第13号、101-119頁
- ・松下佳代 2007.12 「カリキュラム研究の現在」『教育学研究』第74巻第4号、567-576頁

【その他の著作物】

(報告書)

- ・松下佳代 2008.2 「相互研修型 FD と SoTL」『京都大学高等教育叢書26 相互研修型 FD の組織化による教育改善2007—4年間の活動の成果と自己評価—』209-223頁
- ・松下佳代 2008.3 「算数・数学学力調査報告」『青少年期から成人期への移行についての追跡的研究 JELS 第11集 (A エリア Wave2 調査報告)』第3部第I章、第三章、第V章執筆担当
- ・松下佳代 2008.3 「京都大学における大学院生のための教育実践講座 (パワーポイント資料)」『大学院博士課程における大学教員の養成機能形成に関する日米比較研究 (平成18~19年度科学研究費補助金 (萌芽研究))』(研究代表者 夏目達也名古屋大学高等教育研究センター教授) 35-44頁

(その他)

- ・松下佳代 2007.4 「百ます計算で何が獲得され、何が獲得されないか」『科教協ニュース』No. 584、8-9頁
- ・松下佳代 2007.8 「教育評価としての問題点 (特集: 全国一斉学力テストがもたらしたもの)」『教育』第57巻第8号、41-48頁
- ・松下佳代 2007.8 「『全国学力テスト』は学力形成をどう変えるか?」『学校運営』第553号、12-17頁

【学会発表】

- ・松下佳代 2007.6 「日常的教育改善への FD の再文脈化—ヒアリング調査をふまえて—」大学教育学会第29回大

会、東京農工大学

- ・松下佳代 2007.6 「大学教育実践の共有化とネットワーク形成」日本教育工学会6月シンポジウム、東京工業大学
- ・松下佳代 2007.9 「JELS-PAの知見と実践的示唆」日本教育心理学会第49回総会（自主シンポジウム「算数・数学学力テストから教授学習過程への示唆」）、文教大学
- ・松下佳代 2007.9 日本教育心理学会第49回総会（自主シンポジウム「教室で子ども主体の学び合いを研究している私を問う」指定討論）、文教大学
- ・平山朋子・松下佳代 2007.9 「パフォーマンス評価によるリフレクションと学び—客観的臨床能力試験（OSCE）リフレクション法の提案—」日本教育方法学会第43回大会、京都大学
- ・平山朋子・松下佳代 2008.3 「学生の学びに根ざしたFD—理学療法教育におけるOSCEリフレクション法とFD実践」第14回大学教育研究フォーラム、京都大学

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「ライフサイクルと教育A」（前期）、「学力・学校・社会」（後期）
- ③大学院教育：「高等教育開発論研究A・B」（教育学研究科、前・後期）、「高等教育論演習ⅢA・B」（教育学研究科、前・後期）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・点検・評価実行委員会委員
- ・学術情報メディアセンター学内共同利用運営委員会委員
- ・女性研究者支援センター 地域連携事業ワーキンググループ推進員

【社会活動】

- ・日本教育方法学会理事
- ・日本カリキュラム学会理事
- ・教育目標・評価学会理事
- ・大学教育学会理事、学会誌編集委員
- ・大学コンソーシアム京都 京都高等教育研究センター研究員
- ・学校図書算数教科書著作者

【講演】

(FD関係)

- ・松下佳代 2007.5 「FDの現状と未来—高等教育機関での様々なFD活動の取組み—」福井工業高等専門学校創造教育開発センター設立記念講演
- ・松下佳代 2007.6 「FDのこれまでとこれから—『FD義務化』の時代に—」New Education Expo 2007
- ・松下佳代 2007.11 「大学院生のための教育実践講座—3年間の成果と今後の展望—」名古屋大学高等教育研究センター第66回招聘セミナー

【その他】

- ・松下佳代 2007.6 「PISA調査の求めるリテラシーとこれからの授業デザイン」福井大学地域教育科学部附属中学校第42回教育研究集会全体研究会
- ・松下佳代 2007.7 「パフォーマンス評価」日本標準第2回教育セミナー
- ・松下佳代 2007.9 「PISA型学力の検証と全国学力テストの問題点」京都教育センター・公開学習会
- ・松下佳代 2007.11 「全国一斉学力テストを考える—PISA型学力の検証—」舞鶴教育研究集会
- ・松下佳代 2008.1 「OECDのPISA調査結果にみられる性差」京都大学女性研究者支援センター「性差の科学」研究会

- ・松下佳代 2008.3 「子どもたちにどんな学力を—PISA リテラシーを手がかりに—」府立高教組口丹ブロック教育研究会
- ・松下佳代 2008.3 「パフォーマンス評価—子どもの思考と表現を評価する—」富士宮市立富士根北中学校学習評価講演会

溝上 慎一 (准教授)

1. 研究業績

【論文】

- ・溝上慎一 2007.12 「ポストモダン社会におけるアイデンティティの二重形成プロセスと心理学者の仕事」『心理学』28 (1)、54-71頁
- ・溝上慎一 2008.2 「青年期における自己対象関係の再構成と自己形成との接続—原田和典論文へのコメント—」『青年心理学研究』19、97-101頁
- ・Mizokami, S. 2008.3 「Double formation processes of identity in postmodern society」杉村和美研究代表者『青年期におけるアイデンティティ形成・変容過程に関する総合的研究—形成・変容のメカニズム解明から形成・変容過程をサポートする実践まで—』平成17年度～平成19年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書(17530474)、75-81頁

【その他の著作物】

- ・溝上慎一 2008.3 「書評 都筑学著『大学生の進路選択と時間的展望—縦断的調査にもとづく検討—』ナカニシヤ出版『大学論集』(広島大学高等教育研究開発センター)、39、367-369頁
- ・溝上慎一 2008.3 「現代大学生の学びと人生形成—知識・技能獲得に影響を及ぼす学習タイプの差異—」京都大学大学院教育学研究科・北京師範大学教育学院『日中教育学系合同シンポジウム2007論文集』、94-109頁

【学会発表】

- ・溝上慎一 2007.6 「学生の学習の質を問うFDを求めて」田中毎実・絹川正吉・井下理企画シンポジウム「FDのダイナミックス(その2)—第一次調査のフォローアップと新たなモデル—」大学教育学会第29回大会、東京農工大学
- ・Mizokami, S. 2007.8 「Personal formation mode: Double dimensional self-definitions in adolescent identity formation」The 13th European Conference on Developmental Psychology, Jena, Germany
- ・溝上慎一 2007.9 「批判的思考と大学教育—FDと学習成果—&指定討論」水間玲子・山田剛史企画WS「心理学者、FD義務化への挑戦—FDの実質化を目指して—」日本心理学会第71回大会、東洋大学
- ・溝上慎一 2008.3 「指定討論」金岡正夫企画・ラウンドテーブル「リベラル・アーツにおける1年次英語教育のあり方—実社会を視野に入れた「自己への気づき」学習をめざして—」第14回大学教育研究フォーラム、京都大学

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育:「現代の大学・大学生論A・B」(前・後期)
- ③大学院教育:「高等教育開発論研究A・B」(教育学研究科、前・後期、共同)

【学外】

- ・大手前大学社会文化学部非常勤講師「心理学研究法Ⅰ」「心理学研究法Ⅱ」
- ・大手前大学人文科学部非常勤講師「認知心理学」「人格心理学」
- ・筑波大学人間学類・集中講義「青年心理学」
- ・奈良県看護協会実習指導者講習会「青年の心理」

3. その他の活動

【学内委員】

- ・教育学研究科・学生委員

【社会活動】

- ・大学教育学会理事
- ・日本青年心理学会理事
- ・International Conference on the Dialogical Self、Scientific Committee 委員
- ・広島大学高等教育研究開発センター客員研究員
- ・兵庫教育大学教育・社会調査研究センター客員准教授
- ・日本青年心理学会『青年心理学研究』編集委員
- ・比治山大学高等教育研究所客員研究員
- ・電通英会大学生調査アドバイザー

【講演】

- ・大谷大学全学 FD 講演会 2007.7 「ファカルティ・ディベロップメントの現在と課題」
- ・京都府高校教育勉強会「權21」講演 2007.7 「今後求められる真の学習とは」
- ・横浜国立大学 FD 研修会講演 2007.8 「学生を育てる授業—アクティブ・ラーニングの多様性—」
- ・電通英会・溝上慎一・川崎友嗣・下村英雄鼎談 2007.9 「大学生にとってのキャリア形成とは何か—その活用と得られるもの—」
- ・同志社大学文学部 FD 講演会 2007.10 「多様化する学生への学習支援」
- ・京都大学・北京師範大学主催 日中教育学系合同シンポジウム・分科会発表 2007.11 「現代大学生の学びと人生形成」
- ・2007年度プラザカレッジ21世紀学講座「絆」講師 2007.11 「青年期における同一化形成と関係性」
- ・私学次世代教育研究会講演 2007.12 「大学での学習が新しい時代を生きる力につながるのか？」
- ・高等教育研究会第76回定例研究会講師 2008.1 「学生の学びと成長における大学教育の課題」
- ・岩手県立大学 FD 講演会 2008.2 「今頃の大学生」
- ・桃山学院高校講演 2008.2 「大学以降、生涯にわたって力強く生きていくための勉強のしかた」

酒井 博之 (助教)

1. 研究業績

【論文】

- ・酒井博之 2007.9 「京都大学における ICT を活用した FD 実践の取り組み—「遠隔連携ゼミ」と「Web 公開授業」—」『メディア教育研究』第4巻 第1号、41-51頁
- ・酒井晃二・酒井博之 2007.12 「「学術プレゼンテーションスキルズ」の実践」『京都大学高等教育研究』第13号、133-147頁.

【その他の著作物】

- ・京都大学高等教育研究開発推進センター 2007.8 平成16年度採択特色 GP「相互研修型 FD の組織化による教育改善」活動報告『2006年度工学部卒業研究調査プロジェクト (速報版)』
- ・酒井博之 2008.2 「Ⅱ-A. 第3回工学部教育シンポジウム」「Ⅲ. 卒業研究調査プロジェクト」「Ⅵ-C. Web 公開授業の研究報告について」「Ⅶ. GP 日誌」京都大学高等教育叢書26 (平成16年度採択特色 GP 報告書「相互研修型 FD の組織化による教育改善2007—4年間の活動の成果と自己評価—))

【学会発表】

- ・Oyama, Y. and Sakai, H. 2007.8 Development of web-based class observation system for university teacher training, 12th Biennial Conference for Research on Learning and Instruction (Budapest, Hungary)
- ・酒井博之 2007.9 「大学の遠隔協調学習におけるコミュニケーションについて (話題提供)」(ワークショップ)

- 「メディアを介したコミュニケーション」、日本心理学会第71回大会、東洋大学
・酒井博之・大山泰宏 2007.9 「Web を利用した公開授業システムの実用化に向けて」日本教育工学会第23回全国大会講演論文集、523-524頁、早稲田大学

2. 教育活動

【学内】

- ③大学院教育：「高等教育開発論研究 A・B」(教育学研究科、前・後期、共同)

【学外】

- ・京都コンピュータ学院非常勤講師「メディア物理」「MIDI 技術」「MIDI 実習」

3. その他の活動

【学内委員】

- ・高等教育研究開発推進センター情報セキュリティ委員
・情報環境機構 KUINS 利用負担金検討委員会委員

【社会活動】

- ・特定非営利活動法人音の文化研究会理事

【その他】

- ・酒井博之・林創 2007.12 「2006年度工学部卒業研究調査の結果と分析—追跡調査から見えてきたこと—」工学部・高等教育研究開発推進センター共催第3回工学部教育シンポジウム、京都大学

第二部門 (全学共通教育カリキュラム企画開発部門)

吉田 純 (教授)

1. 研究業績

【その他の寄稿等】

- ・吉田純 2007.4 「香港科技大学を訪問して」、『共通教育通信』第8号、13-14頁
・吉田純 2007.10 「2 回生進級時アンケートの結果について」、『共通教育通信』第9号、11-12頁

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「社会学基礎論」「経験社会学Ⅰ」「社会学基礎ゼミナール A・B」
②学部教育：「社会情報論」「社会情報論演習 A・B」(以上、総合人間学部)、「社会学特殊講義」(文学部)
③大学院教育：「人間社会基礎論」「共生人間学研究Ⅰ・Ⅱ」「人間・社会行動論2」「社会行動論演習2」(以上、人間・環境学研究科、博士前期課程)、「共生人間学特別研究Ⅰ・Ⅱ」「社会行動論特別演習Ⅰ・Ⅱ」(以上、人間・環境学研究科、博士後期課程)、「社会学特殊講義」(文学研究科)

【学外】

- ・「社会情報学特研Ⅱ」(奈良女子大学文学部)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・教養教育専門委員会
・教養教育専門委員会 A 群科目部会
・教養教育専門委員会 B 群科目部会

【社会活動】

- ・日本社会情報学会 理事、会誌編集委員
- ・日本社会学会 データベース委員
- ・関西社会学会 事務局担当理事
- ・近畿地区大学教育研究会 専門委員、企画小委員会委員

小田 伸午 (教授)

1. 研究業績

【著書】

(共著)

- ・スポーツの百科事典 編集幹事小田伸午、丸善、2007.
- ・運動科学 実践編 小田伸午編、丸善、2007.
- ・常歩式スポーツ上達法 小田伸午他編、スキージャーナル、2007.
- ・サッカートレーニング革命 小田伸午他監修、カンゼン、2007.

【論文】

- ・山田陽介、木村みさか、中村栄太郎、増尾義久、小田伸午：15～97才日本人男子1006名における体肢筋量と筋量分布 体力科学56：461-472、2007.

【その他の著作物】

- ・小田伸午：小学校教師なら知っておきたい「走り」のこと. 学校教育 No 1075、2月号：6-11、2007.
- ・小田伸午、木寺英史：ナンバ走りを感じ、考える. 体育科教育 55 (6)：36-40、2007.
- ・小田伸午：現代っ子の運動能力を向上させるために ～大人が誤った感覚を教えてはいけない～. 小児歯科臨床 12 (7)：19-26、2007.
- ・小田伸午：京都大学スポーツ実習 アンケート調査より. 大学体育 89：96-98、2007.
- ・小田伸午：現代っ子の運動能力を向上させるために ～大人が誤った感覚を教えてはいけない～小児歯科臨床 12 (7)：19-26、2007.
- ・小田伸午：スポーツにおける「からだ」の使い方. 理学療法 湖都 (滋賀県理学療法士会学術誌) 27：14-24. 2008.
- ・小田伸午、宮本省三：「失われた身体」を取り戻す (対談、運動麻痺からの“回復”とは何か) こころのサイエンス 04号：38-43、2008.

【学会発表】

- ・Yamada Y, Yokoyama K, Osaki T, Noriyasu R, Adachi T, Hashii Y, Itoi A, Okayama Y, Matsumura Y, Morimoto T, Nakamura E, Oda S, Kimura M, 2007.6 “Physical activity level, lifestyle, nutrition, and body composition in Japanese healthy and frail elderly (64–96 yr)”. ACSM 54th Annual Meeting, New Orleans, USA
- ・Yokoyama K, Yamada Y, Osaki T, Noriyasu R, Adachi T, Matsumura Y, Kawaguchi A, Kimura M, Oda S, 2007.6 “Reduced Long-range Correlations Of Gait Cycle Relate To Declines In Physical Ability In The Elderly”. ACSM 54th Annual Meeting, New Orleans, USA
- ・Kokubu. M., Ando, S., & Oda, S, 2007.6 The effect of fixation distance on the peripheral visual reaction times. North American Society for the Psychology of Sport and Physical Activity Conference 2008 San Diego
- ・Kudo K, Fujii S, Ohtsuki T, Oda S, 2007.7 Motor automaticity as an emergent property of a dynamical system 14th International Conference on Perception and Action (ICPA14), Yokohama
- ・Shinya M, and Oda S, 2007.7 “Electromyography Responses of the Perturbed Leg to Unexpected Loss of Ground Support during Human Walking” ISB XXI Congress Taipei 2007 Taipei, Taiwan
- ・Kida N, Itoh S, Oda S, 2007.12 “The control of the spatial bat position in baseball bunt” Asia-Pacific Conference on Exercise and Sports Science, Hiroshima University

- ・ Shinya M and Oda S, 2007.12 “Gait Temporal Parameter after an Unexpected Loss of Footing” Asia-Pacific Conference on Exercise and Sports Science (APCESS) 2007 Hiroshima, Japan
- ・ Kokubu, M., Miyamoto, N., & Oda, S. 2007.12 Temporal and spatial consistency of reaching movements in the depth direction using vergence eye movements. Asia-Pacific Conference on Exercise and Sports Science (3rd conference) Hiroshima University
- ・ Yamada Y, Yokoyama K, Ebine N, Okayama Y, Oda S, Kimura M, 2008.2 “The determinant of energy expenditure in 64-96 year-old Japanese elderly”. RACMEM, Denver, CO, USA
- ・ 藤井進也・工藤和俊・進矢正宏・大築立志・小田伸午 2007.9 「ドラム奏者の片手最速スティッキング課題における前腕筋群の表面筋電図活動—Co-contraction の定量化—」第58回日本体育学会、神戸大学
- ・ 山田陽介・小田伸午・増尾善久・木村みさか 2007.9 「老化および身体能力と筋量の大腿下腿比および左右差との関連」第58回日本体育学会本部企画シンポジウムオーガナイズドセッション 神戸大学
- ・ 来田宣幸・伊藤慎哉・向井公一・小田伸午 2007.9 「バント動作における熟練者と非熟練者の違い」日本体力医学会第62回大会 ノースアジア大学
- ・ 土屋真司・山田陽介・小田伸午 2007.9 「野球のピッチング中の投球腕の軌道は投球分布に影響を与える」第56回日本体育学会 神戸大学
- ・ 國部雅大・宮本直和・小田伸午 2007.9 「輻輳および開散眼球運動が奥行き方向への到達動作の制御に与える影響」日本体育学会第58回大会、神戸大学
- ・ 松田有司・赤井聡文・生田泰志・野村輝夫・小田伸午 2007.11 「クロール泳における1ストローク中の速度変動」2007年日本水泳・水中運動学会年次大会 鎌倉女子大学
- ・ 土屋真司・山田陽介・福田岳洋・瀬尾和弥・松井知之・森原徹・小田伸午 2008.3 「リリースタイミングは投球到達位置にどのような影響を与えるか？」第136回京都体育学会 龍谷大学
- ・ 進矢正宏・山田陽介・小田伸午 2008.3 「なぜディフェンスはオフenseになす術もなく抜き去られるのか—荷重割合と姿勢制御の関係—」第136回京都体育学会 龍谷大学
- ・ 横山慶一・山田陽介・進矢正宏・岡本英也・松村吉浩・木村みさか・小田伸午 2008.3 「しなやかさは高齢者の歩行を安定させるか？—歩調ゆらぎと体力・体組成の検討—」第136回京都体育学会 龍谷大学
- ・ 山田陽介・岡本英也・木村みさか・小田伸午 2008.3 「細胞が筋体積に占める割合が高齢者の固有筋力個人差をうまく説明する」第136回京都体育学会 龍谷大学
- ・ 櫻場厚浩・小田伸午 2008.3 「サッカーのトラップ・アンド・パスのバイオメカニクス研究」京都体育学会第13回大会、龍谷大学
- ・ 櫻場厚浩・小田伸午 2008.3 「サッカーにおけるトラップしてパスする動作に関するバイオメカニクス研究」日本フットボール学会第5回大会、大阪市立大学
- ・ 亀谷亮輔・小田伸午 2008.3 「競技レベルの違いによるテニスのフットワークの安定性の違い」京都体育学会第137回大会 龍谷大学

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「運動科学」「スポーツ実習（二軸動作）」
- ②学部教育：「運動制御ゼミA」「運動制御ゼミB」「運動制御実験」「認知行動科学入門」
- ③大学院教育：「身体運動学」「行動制御学演習1」「認知・行動科学基礎論」「共生人間学研究I」「共生人間学研究II」「共生人間学特別研究I」「共生人間学特別研究II」「行動制御学特別演習1」「行動制御学特別演習2」「認知・行動科学特別セミナー」

【学外】

- ・ 高校大学連携：京都府立向陽高校にてスポーツ科学の授業担当
- ・ 大阪市立桜宮高校にてスポーツ科学の授業担当

3. その他の活動

【学内委員】

- ・全学共通教育システム委員会
- ・基礎教育専門委員会
- ・教養教育専門委員会
- ・D群科目部会 (委員長)

【社会活動】

- ・日本体育学会会員
- ・京都体育学会副会長
- ・日本体力医学会幹事
- ・日本運動生理学会会員
- ・日本バイオメカニクス学会会員
- ・日本トレーニング科学会会員

山本 行男 (教授)

1. 研究業績

【論文】

- ・ T. Hirayama, S. Iyoshi, M. Taki, Y. Maeda, and Y. Yamamoto, Synthesis of a new bifunctionalised fluorescent label and physical properties of the bound form on model peptide of troponin C. *Org. Biomol. Chem.*, 2007, **5**, 2040.
- ・ Y. Mizuta, S. Kazama, Y. Ohba, N. Sakai, Y. Yamamoto, Y. Shimoyama, Development of a control system for pulsed-electron spin resonance spectrometers. *Rev. Sci. Instr.*, 2008, **79**, 044705.
- ・ M. Taki, Y. Kawashima, N. Sakai, T. Hirayama, and Y. Yamamoto, Effects on Heteroatom Substitution on the Structures, Physicochemical Properties, and Redox Behavior of Nickel(II) Complexes with Pyridine-Containing Macrocyclic Ligands. *Bull. Chem. Soc. Jpn.*, 2008, **81**, 590–597.

【学会発表】

- ・ M. Taki and Y. Yamamoto, Membrane-permeable Fluorescent Chemosensor for Ratiometric Imaging of Cadmium in Living Cells. Biomimetics Conference, Doshisha, Kyoto, Japan, December, 2007.
- ・ T. Hirayama, M. Taki and Y. Yamamoto, Development of New Lanthanide Complexes Binding to Peptide Tag. Biomimetics Conference, Doshisha, Kyoto, Japan, December, 2007.
- ・ T. Hirayama, M. Taki and Y. Yamamoto, Mechanism of colorimetric sensing of Hg^{2+} with triethyleneglycol-supported gold nano-cluster, ICBIC XIII, 13th International Conference on Biological Inorganic Chemistry, Vienna, Austria, July, 2007.
- ・ M. Taki and Y. Yamamoto, Highly Selective Ratiometric Fluorescent Probe with Picomolar sensitivity for Cadmium, ICBIC XIII, 13th International Conference on Biological Inorganic Chemistry, Vienna, Austria, July, 2007.
- ・ 平山祐・多喜正泰・山本行男、新しいペプチドタグ結合性希土類錯体の開発、第22回生体機能関連化学シンポジウム、東北大学、9月・2007年
- ・ 多喜正泰・出崎美佳・山本行男、アミノクマリンを骨格とした新規レシオ型カドミウム蛍光プローブの開発、第22回生体機能関連化学シンポジウム、東北大学、9月・2007年
- ・ 伊吉祥平・多喜正泰・山本行男、チオエーテル配位子を有するロサミン型蛍光プローブの開発と金属イオンに対する蛍光挙動、第57回錯体化学討論会、名古屋工業大学、9月・2007年
- ・ 若松俊彦・平山祐・多喜正泰・山本行男、タンパク質蛍光ラベル化を目指したペプチド結合性ニッケル錯体の合成と性質、第57回錯体化学討論会、名古屋工業大学、9月・2007年
- ・ 平山祐・多喜正泰・山本行男、エチレングリコール担持金クラスターを用いた水銀の特異的検出とその反応メカニズム、第57回錯体化学討論会、名古屋工業大学、9月・2007年
- ・ 平山祐・多喜正泰・山本行男、エチレングリコール担持金クラスターによる水銀イオンの特異的検出とその反応機

構、日本化学会第88春季年会、立教大学、3月・2008年

- ・若松俊彦・多喜正泰・山本行男、外部配位子との配位挙動に及ぼす環状ニッケル錯体の置換基効果、日本化学会第88春季年会、立教大学、3月・2008年
- ・春木秀仁・平山祐・多喜正泰・山本行男、タンパク質の可逆的蛍光ラベル化を指向した二官能基性ローダミン分子の開発、日本化学会第88春季年会、立教大学、3月・2008年
- ・伊吉祥平・多喜正泰・山本行男、チオエーテル配位子を有するロサミン型蛍光センサーの構造と機能、日本化学会第88春季年会、立教大学、3月・2008年

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「基礎有機化学 A・B」「基礎化学実験」「環境化学概論 A」
- ②学部教育：「物質構造論」「課題演習：分子の構造と機能」「自然科学特別ゼミナール A・B」（以上、総合人間学部）
- ③大学院教育：「相関環境学研究 I・II」「分子生体相関論 1」「分子環境相関論演習 1・2」「分子・生命環境基礎論」（以上、人間・環境学研究科 博士前期課程）、「相関環境学特別研究 I・II」「分子環境相関論特別演習 1・2」「分子・生命環境論特別セミナー」（以上、人間・環境学研究科 博士後期課程）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・人間・環境学研究科相関環境学専攻長
- ・全学共通教育システム委員会
- ・基礎教育専門委員会
- ・基礎教育専門委員会化学部会

田地野 彰（教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・大木充・松井沙矢子・堀晋也・西山教行・田地野彰 2007.10 「CALL による教室外自律学習の必要性和有効性」、*Revue japonaise de didactique du francais*, Vol. 2, No. 1, pp. 130-152.
- ・田地野彰 2007.11 「英語ライティングにおける専門語彙知識の重要性—経済ニュース記事の和文英訳を通して—」『奈良女子大学夏季英語講座 2007年度報告書—英語の授業研究—』pp. 67-73.
- ・田地野彰・寺内一・笹尾洋介・マスワナ紗矢子 2007.12 「総合研究大学における英語学術語彙リスト開発の意義—EAP カリキュラムデザインの観点から—」、『京都大学高等教育研究』第13号、pp. 121-131.
- ・Dalsky, D. and A.Tajino, 2007.12 “Students’ perceptions of difficulties with academic writing: a report from Kyoto University academic writing courses.” *Kyoto University Researches in Higher Education*, Vol. 13. pp. 45-51.
- ・田地野彰・マスワナ紗矢子 2008.3 「日本における自己表現能力育成への取り組み」羽井佐昭彦（編）「国際社会で通用する自己表現力の育成に向けて—英国における自己表現力育成を参考に—」平成17年度～平成19年度科学研究費補助金（基盤研究（C））（研究課題番号 17520396）報告書. pp. 17-25.

【その他の著作物】

- ・西堀わか子・田地野彰（編）2007.11 『奈良女子大学夏季英語講座 2007年度報告書—英語の授業研究—』奈良女子大学・国際交流センター. pp. 1-92.
- ・田地野彰 2008.3 「京都大学における英語のカリキュラム改革—専門教育との連携を目指して—」『新しい教養教育を目指して—カリキュラムから科目改革まで、語学教育の潮流を読む—』長崎大学・大学教育機能開発センター・研究報告集. pp. 23-34.

【学会発表】

- ・羽井佐昭彦・寺内一・田地野彰 2007.9 「英国の初等・中等教育における自己表現力育成の取り組みに関する一考察」第46回大学英語教育学会全国大会（於 安田女子大学）
- ・田地野彰・寺内一 2008.2 「専門教育との連携を目指した大学英語教育—ESP の研究成果に基づいて—」京都大学高等教育研究開発推進センター主催第77回公開研究会（於 京都大学）
- ・羽井佐昭彦・村田久美子・田地野彰・寺内一 2008.3 「国際社会で通用する自己表現力の育成に向けて—英国における自己表現力育成を参考に—」第14回大学教育研究フォーラム（於 京都大学）

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「英語ⅠA・B」「英語ⅡA・B」
- ②学部教育：「英語構造・表現論演習A」（総合人間学部）
- ③大学院教育：「共生人間学Ⅰ・Ⅱ」「教育言語学2」「外国語教育基礎論」「外国語教育基礎論演習」（以上、人間・環境学研究科、博士前期課程）「共生人間学特別研究Ⅰ・Ⅱ」「外国語教育論特別演習1・2」「外国語教育論特別セミナー」（以上、人間・環境学研究科、博士後期課程）

【学外】

- ・奈良女子大学夏季英語講座（講座企画責任者）
- ・京都府立大学 英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語科教育法Ⅰ
- ・京都府立向陽高校（高大連携プロジェクト）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・全学共通教育システム委員会
- ・外国語教育専門委員会
- ・外国語教育再構造化委員会
- ・国際交流委員会

【講演】

- ・田地野彰 2007.10 「語学教育におけるテーチング・アシスタントの活用」平成19年度国立七大学外国語教育連絡協議会合同シンポジウム・パネリスト（於 東北大学）
- ・田地野彰 2007.12 「新しい教養教育を目指して」第4回長崎大学・大学教育機能開発センター・シンポジウム（基調講演）（於 長崎大学）
- ・田地野彰 2008.2 「これからの大学英語教育—カリキュラム開発から授業実践まで—」京都府立高等学校英語教育研究会（基調講演）（於 京都府立桃山高校）

【その他】

- ・田地野彰 平成19年度京都大学総長裁量経費「教育研究改革・改善プロジェクト等経費」プロジェクト：「京都大学における英語の学術語彙データベースの構築—全学共通教育と専門教育との有機的連携を目指して」（開発リーダー）（2007.4-2008.3）

田中 真介（准教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・田中真介 2007.8 「日本応用心理学会の過去・現在・未来を語る」日本応用心理学会第74回大会発表論文集、8頁。
- ・田中真介 2007.11 「幼児期から児童期における自己認識と論理的思考力の発達連関、Developmental Relationships between Self-Recognition and Logical Thinking in Early Childhood」国際幼児教育学会第28回大会論文集、34頁。

- ・田中真介 2008.3 「幼児期の発達」幼児教育年報、44号、250-255頁.

【その他の著作物】

- ・田中真介 2007.10 「繊細の精神 l'esprit de finesse」全幼協ニュース、1号、1-3頁.

【学会発表】

- ・大村政男・荻野七重・田中真介 2007.9 「日本応用心理学会の過去・現在・未来を語る」日本応用心理学会第74回大会.
- ・田中真介 2007.11 「幼児期から児童期における自己認識と論理的思考力の発達連関」国際幼児教育学会第28回大会.

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：全学共通科目「発達論」「スポーツ指導法実習A・B」「スポーツ実習IA・IB」、及び、新入生向け少人数ゼミナール「食事と運動」を担当。
- ③大学院教育：大学院人間・環境学研究科で「共生人間学研究Ⅰ・Ⅱ」「行動発達論2」「行動制御学演習2」を担当。

【学外】

- ・膳所高等学校一京都大学・高大連携プロジェクト（学力向上フロンティアハイスクール事業）として、膳所高等学校生徒を対象とした京都大学公開講座、人文・社会科学Aコース及びBコース「霊長類の子どもの発達」を担当。
- ・龍谷大学「生理心理学」、滋賀医科大学「心理学概論」、花園大学「生命科学Ⅰ」「生命科学Ⅱ」を担当。

3. その他の活動

【学内委員】

B群科目部会、D群科目部会、少人数教育部会の各委員。

【社会活動】（*学会役員、学外委員など）

- ・日本応用心理学会理事、「応用心理学研究」編集委員。
- ・京都府立養護学校・地域等連携事業及び特別支援教育体制推進事業『教育相談支援チーム』専門相談員・支援地域巡回相談員。

【講演】

- ・浦添市立宮城小学校（2007）学校保健講演会「複眼的なものの見方で子どもの行動や言葉を捉える～具体的な児童観察の分析から～」
- ・名古屋市発達センターちよだ、発達講座（2007）「発達と保育・子育ての課題 ～1歳半の発達 自我の育ちを学ぶ～」

【その他】

- ・大学院人間・環境学研究科共生人間学専攻（協力教員）
- ・スポーツ指導・相談室（専任相談員）
- ・保健管理センター（非常勤講師、健康相談室専任相談員）

第三部門（情報メディア教育開発部門）

小山田耕二（教授）

1. 研究業績

【著書】

- ・K. Koyamada, S. Tamura, and O. Ono, "Systems Modeling and Simulation: Theory and Applications," Springer-Verlag New York, Inc

【論文】

(査読付学術雑誌)

- ・ 安原幸生・坂本尚久・江原康生・片尾浩・小山田耕二、“震源データからの断層面推定支援システムの開発”、日本シミュレーション学会誌、Vol. 26、No. 4、pp. 212-218、2007.
- ・ 久木元伸如・江原康生・古川雅人・小山田耕二、“没入型共有 VR 空間での遠隔協調作業における手書き注釈付与を用いた思考支援に関する実験的検証” 情報処理学会論文誌、Vol. 48、No. 6、pp. 2153-2163、2007.
- ・ 坂本尚久・小山田耕二、“粒子ベースボリュームレンダリング”、可視化情報学会論文誌、Vol. 27、No. 2、pp.7-14、2007.

【学会発表】

(査読付国際会議)

- ・ Teppei Tanaka, Takayuki Itoh, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “An interactive approach for hierarchical parameter optimization,” Proceedings of Seventh International Symposium on Advanced Fluid Information and Fourth International Symposium on Transdisciplinary Fluid Integration (AFI/TFI) 2007, pp. 162-165, 2007.
- ・ Satoshi Tanaka, Takuya Hatta, Frederika Rambu Ngana, Ayumu Saitoh, Naohisa Sakamoto, Jorji Nonaka, Koji Koyamada, “Grid-independent Metropolis sampling for volume visualization,” The 6th EUROSIM Congress on Modeling and Simulation (EUROSIM 2007), CD-ROM (310), 2007.
- ・ Frederika Rambu Ngana, Takuya Hatta, Naohisa Sakamoto, Jorji Nonaka, Koji Koyamada, Satoshi Tanaka, “Visualization of Medical Volumetric Data Based on Grid Independent Monte Carlo Sampling,” International Conference on Soft Computing, Intelligent System & Information Technology 2007, pp. 65-68, 2007.
- ・ Yasuo Ebara, Takuya Tanaka, Hideaki Sone and Koji Koyamada, “High Speed Remote Visualization with Large-scale Volume Data in Grid Environments”, IIEEJ Image Electronics and Visual Computing Workshop 2007 (IEVC 2007), 4C-3, CD-ROM, 2007.
- ・ Ding Zhongming, Takuma Kawamura, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “Evaluation of Image Quality in Particle-based Volume Rendering”, IIEEJ Image Electronics and Visual Computing Workshop 2007 (IEVC 2007), 1C-6, CD-ROM, 2007.
- ・ Norihisa Segawa, Yukio Yasuhara, Naohisa Sakamoto, Tomoki Yoshihisa, Yasuo Ebara, Koji Koyamada, “A Real-time Sensor Network Visualization System using KVS - Kyoto Visualization System”, the 5th ACM Conference on Embedded Networked Sensor Systems (Sensys'07), pp. 367-368, 2007.
- ・ Takuma KAWAMURA, Jorji NONAKA, Naohisa SAKAMOTO, Koji KOYAMADA, “Particle-Based Volume Rendering of Unstructured Volume Data”, NICOGRAPH International 2007, CD-ROM, 2007.
- ・ Akira Yamasaki, Yukio Yasuhara, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “Speed-Up of Marching Diamonds and Evaluation of Methods for Isosurface Extraction from Tetrahedral Mesches”, NICOGRAPH International 2007, CD-ROM, 2007
- ・ Yasuo Ebara, Nobuyuki Kukimoto, Jason Leigh, Koji Koyamada, “Tele-immersive Collaboration using High-resolution Video in Tiled Displays Environment”, IEEE International Workshop on Network-based Virtual Reality and Tele-existence (INVITE 2007), pp. 953-958, 2007.
- ・ Nobuyuki Kukimoto, Yasuo Ebara, Koji Koyamada, “Tele-Immersive Collaborative Virtual Environment for Intuitive Interpretation”, International Symposium on Artificial Life and Robotics (AROB 12th 07), pp. 794-797, 2007.
- ・ N. Sakamoto, J. Nonaka, K. Koyamada, S. Tanaka, Particle-based Volume Rendering, Asia-Pacific Symposium on Visualization (APVIS 2007), pp. 141-144, 2007.
- ・ Y. Yasuhara, N. Sakamoto, J. Nonaka, K. Koyamada, A Scene Graph based Visualization System for Handling Multiple Visualization Pipelines, Asia-Pacific Symposium on Visualisation (APVIS 2007), Poster, 2007.
- ・ N. Sakamoto, J. Nonaka, K. Koyamada, A. Saito, A. Kimura, S. Tanaka, Volume Rendering For Multiple Volume Datasets Using Tiny Particles, Asia-Pacific Symposium on Visualization (APVIS 2007), Poster, 2007.
- ・ J. Nonaka, N. Sakamoto, T. Kawamura, K. Koyamada, Particle-Based Volume Rendering of Unstructured Volume Data, Asia-Pacific Symposium on Visualization (APVIS 2007), Poster, 2007.

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「研究の世界 A」「研究の世界 B」
- ②学部教育：「基礎情報処理」「生体医療工学」「特別研究」
- ③大学院教育：「情報メディア工学特論」「電気工学特別研修 1・2」「電気工学特別実験及演習 1・2」「心臓・神経生理入門」

【学外】

- ・上智大学「ビジュアライゼーション」

3. その他の活動

【学内委員】

- ・高等教育研究開発推進機構執行協議会委員
- ・全学共通教育システム委員会委員
- ・情報教育専門委員会委員
- ・FD 研究検討委員会委員
- ・大型計算機システム運用委員会委員
- ・教育情報化タスクフォース委員

【社会活動】

- ・日本シミュレーション学会副会長・編集委員会委員長
- ・可視化情報学会理事・論文誌編集委員会委員長
- ・IEEE Pacific Vis Symposium Co-chairs

日置 尋久 (准教授)

1. 研究業績

【論文】

(査読あり)

- ・HIOKI Hirohisa, 2007.11, "A Steganographic Method Based on a File Attribute", Proceedings of Intelligent Information Hiding and Multimedia Processing (IIHMSP) 2007, vol. 2, pp. 441-444

【その他の著作物】

(編集)

- ・IEEE Pacific Visualization Symposium 2008 Poster Proceedings

【学会発表】

- ・日置尋久 2007.11 「ファイルの属性値を利用したステガノグラフィ」、電子情報通信学会 第2回マルチメディア情報ハイディング研究会報告書、pp. 57-61

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「情報学概論 A」「プログラミングとその応用 I」「コンピュータグラフィクス実習 A、B」「情報科学 B (リレー講義)」「学術研究事始め A、B」
- ②学部教育：「プログラミングとその応用 I」「言語・数理情報科学入門 (リレー講義)」「卒論指導 (2名)」
- ③大学院教育：「共生人間学研究 I、II」「数理科学基礎論」「画像情報論」「数理情報論演習 1、2」「共生人間学特別研究 I、II」「数理情報論特別演習 1、2」「数理科学特別セミナー」「院生指導 (1名)」

【学外】

- ・情報科学概論 (京都ノートルダム女子大学)

- ・ コンピュータネットワーク (京都ノートルダム女子大学)
- ・ プログラミング概論 (京都ノートルダム女子大学)
- ・ 情報数学 (同志社女子大学)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 情報教育専門委員会委員
- ・ 教務事務電算管理運営委員会委員
- ・ 情報環境機構教育用コンピュータシステム運用委員会委員
- ・ 高等教育研究開発推進センター情報セキュリティ委員会委員
- ・ 人間・環境学研究科 全学共通教育実施委員会委員
- ・ 人間・環境学研究科 ホームページ委員会委員

【社会活動】

- ・ 電子情報通信学会マルチメディア情報ハイディング研究会専門委員
- ・ 情報処理学会グラフィクスと CAD 研究会運営委員
- ・ 可視化情報学会 論文編集委員会 編集委員
- ・ 東北大学 電気通信研究所 共同研究員
- ・ IIHMSP2007 プログラム委員
- ・ IEEE Pacific Visualization Symposium 2008 Publication Chair

【その他】

- ・ 総合人間学部 DNS サーバ、WWW サーバ管理担当
- ・ KUINS-II サブネット管理担当

酒井 晃二 (助教)

1. 研究業績

【論文】

(原著論文)

- ・ Oouchi H, Yamada K, Sakai K, Kizu O, Kubota T, Ito H, Nishimura T, “Diffusion anisotropy measurement of brain white matter is affected by voxel size: underestimation occurs in areas with crossing fibers.”, *AJNR Am J Neuroradiol.* 2007 Jun-Jul; 28(6): 1102–1106 (IF; 2.279)
- ・ Yamada K, Sakai K, Hoogenraad FG, et al. Multitensor tractography enables better depiction of motor pathways: initial clinical experience using diffusion-weighted MR imaging with standard b-value. *AJNR Am J Neuroradiol.* 2007; 28: 1668–73. Epub 2007 Sep 20

(国際会議論文・査読あり)

- ・ Koji Sakai, Kei Yamada, Hiroyuki Oouchi, Tsunehiko Nishimura, “Diffusion Tensor Imaging reveals the evolution of Neuronal Cell Membrane Damage in Stroke Patients: A Simulation Study”, Proceedings of the International Society for Magnetic Resonance in Medicine, ISMRM 15th Scientific Meeting, Berlin, Germany, 19–25 May 2007, p. 1545
- ・ K. Yamada, K. Sakai, F. G. Hoogenraad, R. Holthuizen, K. Akazawa, H. Ito, H. Oouchi, S. Matsushima, T. Kubota, and T. Nishimura, “Multi-tensor tractography enables better depiction of motor pathways”, Proceedings of the International Society for Magnetic Resonance in Medicine, ISMRM 15th Scientific Meeting, Berlin, Germany, 19–25 May 2007, p.1546
- ・ Koji Sakai, Sho Iwasa, Koji Koyamada, Takashi Azuma, Sadami Tsutsumi, “Tractography Based Quantitative Similarity Analysis of Human Brain White Matter”, (VIS2007) VIS2007 In Conference Compendium of IEEE Visualization 2007

(論考)

- ・ 酒井晃二・酒井博之、“[学術プレゼンテーションスキルズ] の実践”、京都大学高等教育研究第13号 (2007)、pp.

133-147

(解説)

- ・酒井晃二・山田 恵・小山田耕二・西村恒彦、“脳腫瘍の診断と治療—グリオーマにおける画像診断の役割を中心に—特集 脳腫瘍における fiber tracking の利用”、臨床放射線52、pp. 748-758、2007

【招待講演・教育講演】

- ・酒井晃二・山田恵、“DWI データを利用する！ マッピングとトラクトグラフィ”、第35回磁気共鳴医学会大会、教育講演
- ・山田恵・酒井晃二・西村恒彦、“拡散強調画像で観察する神経線維束：その現状と限界”、第35回磁気共鳴医学会大会、パネルディスカッション PD1-5

【学会発表】

- ・酒井晃二・山田恵・大内宏之・西村恒彦、“DWI は脳溢血患者の神経線維膜損傷を明らかにできるか？：シミュレーションによる初期検討”、日本磁気共鳴医学会雑誌 Vol. 27、第35回磁気共鳴医学会大会講演抄録集、EP-2-144
- ・高木志穂・酒井晃二・工藤興亮・山田恵・小山田耕二・西村恒彦、“リスクマップ作成フレームワーク：DWI-PWI Mapper”、日本磁気共鳴医学会雑誌 Vol. 27、第35回磁気共鳴医学会大会講演抄録集、EP-2-145

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「プレゼンテーションスキルズ A」（前期／一般教養科目）

【学外】

- ・京都コンピュータ学院（C 言語研究）（前期）

3. その他の活動

【社会活動】

- ・日本芸術科学会 関西支部会計幹事（H17.4.1 より H19.4.30まで）
- ・可視化情報学会論文誌編集委員および可視化情報学会幹事（H18.9.7 より）

【その他】

- ・京都大学学術研究振興財団海外渡航助成金により 1 カ年（平成19年10月1日～平成20年9月30日） Johns Hopkins University, School of Medicine, Department of Radiology において Visiting Faculty